

## ペットのいのちを守る

3年1組9番 隈田莉海

Keyword: 「ペット」「殺処分」「保護犬・猫」「TNR活動」「保護施設」

## 1. はじめに

私がこの探究をテーマにした理由は、殺処分数が減ってはいるがなくなっていない現状を知り、減り続けているならゼロにすることができるのでは、自分達にできることがまだあるのではと思ったからだ。そして奈良市では殺処分数4年連続ゼロが実現していて、その取り組みを伝えて、たくさんの都道府県で殺処分数ゼロを目指せるのではないかと思い活動を始めた。

## 2. 序論

## ・目的（問い）

多くの人にこの問題について知ってもらおうと考え、どのように情報を集め、どのようにしてより多くの人に問題について知ってもらえるかを考えた。保護犬・猫についてまとめたカレンダーの作成を始めた。

## ・先行研究



東京都町田市を中心に生きる場所を失ったワンコを保護し、新しい家族を見つける活動をしている『小さな命を守る会』のチャリティーショップでのカレンダー

<小さな命を守る会（東京・町田市の犬保護ボランティアグループ）>

## ・HP

<https://chiisana-inochi.com/>

## ・活動ブログ

<https://chiisana-inochi.com/category/blog/>

## ・連絡先メールアドレス

[chiisana23inochi@gmail.com](mailto:chiisana23inochi@gmail.com)

・資料と方法

まずは自分が知識を得て、伝えられる立場に立てるように、石川県にある保護施設「しっぽの郷」へ行き、そこで働いていらっしゃる方々に話を聞きに行った。



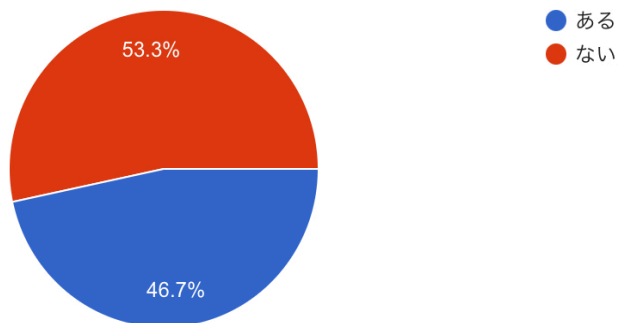
3. 本論

・結果と分析

命の輝きで探究活動を行なっている22人にしつけと虐待の境目の認識についてアンケートを実施した。22人中ペットを飼っている人は15人で、①ペットに対してつい手が出てしまうことはあるか。(悪いことをしたから叩く、怒鳴るなど)、②つい手が出てしまうことに対してどう思うか。の2つの質問を行った。

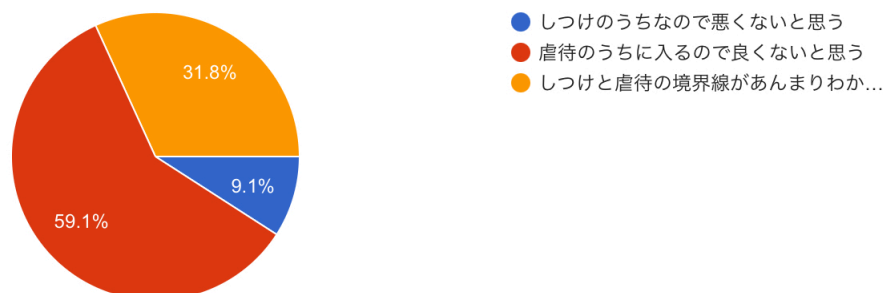
①ペットに対してつい手が出てしまうことはあるか。(悪いことをしたから叩く、怒鳴るなど)

15件の回答



## ②つい手が出てしまうことに対してどう思うか。

22 件の回答



この結果からつい手を出してしまう人が半分ほどいるが、しつけのうちなので悪くないと思う人が少ないため、しつけと虐待の境目を認識している人が多いと分かった。しかし、しつけと虐待の境目をよく分かっていない人が31.8%と予想より多かったため、カレンダー作成により知識をしっかりと提供することが必要だと再度確認できた。

また、私は石川県白山市横江町8街区1国際ビジネス学院白山キャンパス内にある保護施設「しっぽの郷」へ訪問した。そこで専門的な意見を聞き保護犬・猫に対して必要な社会サポートを考察として以下にまとめた。

### ・考察

保護犬を守るためには、犬の福祉を最優先に考え、適切なケアと社会サポートを提供することが重要だ。そこで、保護犬を守るためのいくつかの考察を挙げる。

#### 1. 責任ある里親制度の確立

保護犬を新しい家庭に引き取る際、里親が犬に対して適切なケアを提供できるかを確認する必要がある。里親候補の家庭環境やライフスタイルを事前に調査し、犬にとって安全で安定した環境を提供できる人々にのみ譲渡することが重要である。

#### 2. 避妊・去勢手術の推奨

不必要な繁殖を防ぐために、保護犬には避妊や去勢手術を行うことが一般的でこれにより、野良犬や保護犬の増加を抑制し、動物保護施設への負担を軽減することができる。

#### 3. 継続的な医療ケア

保護施設の方が仰っていたように、保護犬はしばしば健康上の問題を抱えている場合がある。感染症、寄生虫、栄養不良などの治療や、定期的な健康診断を行うことで、犬の健康を維持し、長期的なケアを提供することができる。

#### 4. 地域社会の教育と啓発

犬を捨てたり、虐待したりすることがいかに問題であるかを地域社会に広め、教育キャンペーンを行うことが重要である。責任ある飼い主になるための知識を普及させることで、保護犬の発生を抑え、動物福祉に対する理解を深めることができる。

#### 5. 動物保護施設の支援

保護犬を一時的に収容している動物保護施設は、資金やリソースが不足していることが多い。地域の寄付やボランティア活動を通じて、保護施設が適切なケアを提供できるよう支援することが求められる。

## 6. 適切な譲渡プログラムの確立

犬と里親の相性をしっかり確認し、譲渡後もフォローアップを行うシステムを構築することで、再び犬が保護されるリスクを減らす。里親が必要なサポートや情報を受け取れる体制を整えることも大切である。

## 7. 法律の強化と施行

犬の虐待や捨て犬を防ぐためには、動物福祉に関する法律を強化し、違反者に対する厳しい罰則を設けることが重要です。法律が効果的に施行されることで動物の権利を守り、保護犬の数を減らすことが可能になる。

これらの施策を組み合わせ、社会全体で保護犬を守るための取り組みを強化することで、彼らの生活環境を向上させ、再び安全で幸福な生活を送る機会を提供できる。

## 4. 結論

### ・まとめ（要約）

保護犬・猫の活動について問題が改善できるよう自分達人間ができることはたくさんあり、実際奈良市で保護犬・猫の殺処分数0が達成されているように全国で殺処分数を0にすることは可能であると考えた。そのためにたくさんの人に現状を知ってもらえることが必要だと考え、カレンダーを作成したが、カレンダーの設置場所を考える必要があったと反省するところがある。

(カレンダーの例)



## TNR活動

TNRとは、Trap・Neuter・Return（トラップ・ニューター・リターン）を略した言葉で、捕獲器などで野良猫を捕獲（Trap）し、不妊・去勢手術（Neuter）を行い、元の場所に戻す（Return）ことです。

TNR活動は野良猫を保護し不妊手術を行い、繁殖を制限する活動であり、野良猫の殺処分の抑制、過剰繁殖による病気の拡散、人間とのトラブルなどを軽減するために重要な取り組みです。（NPO法人）

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## 5. 参考文献・出典

2024年しあわせ保護犬カレンダー

<https://chiisana-inochi.stores.jp/items/633598eaf3de5c45a151792d>

(2024年 1/1 閲覧日2024年 6/7)

しっぽの郷 <https://www.anicom-sompo.co.jp/shipponosato/> (閲覧日 2024年 6/7)

奈良市ホームページ

<https://www.city.nara.lg.jp/site/press-release/177356.html> (2023年 5/30 閲覧日 2024年 9/13)